



～セミナーの会場から～

東京理科大連携セミナー

「中小企業経営者が語る！ 知的財産を事業拡大に活かす実践法」

知的財産を創造し、経営に活用することの重要性は知っていても、具体的な実践方法は分からないことが多いのではないのでしょうか。今回は、知的財産の創造・活用手法について、経営者及び知的財産の研究者が実例を踏まえて語るセミナーをご紹介します。

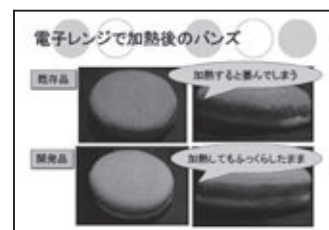
1. 経営者が語る知的財産の創造・活用例

(1) ユニコロイド株式会社 原田社長

海藻や果実に含まれる天然高分子を研究し、食品や医療材料への応用を図っています。研究開発は私(原田社長)が行っていますが、複数の研究課題を並行して考えることで、発明の着想を得られるよう努めています。

2000年には電子レンジで加熱してもふっくらしたままの調理用パンを開発し、コンビニでハンバーガーとして販売したところ、1年間で1,200万個を超える販売実績を記録するなど、大きな反響を呼びました。

特許は毎年数件出願しているほか、特許を担保とした融資も受けています。一方、存続期間の制約を受けないノウハウ(営業秘密)も重視し、秘密保持に努めています。



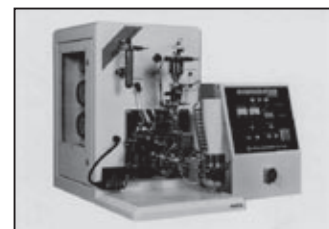
ユニコロイド社開発の調理用パン

(2) 株式会社奈良機械製作所 奈良社長

大正期に創業し、各種粉体処理装置の製造販売を行っています。技術開発に毎年相当額を充てるとともに、産学連携に腰を据えて取り組んでいます(右写真参照)。また、職務発明を促進するため、発明した従業員に手当を支給しています。

さらに、私(奈良社長)自身が異業種他社に対し自社技術の活用を打診しており、視点の異なる者同士が議論することで革新的なアイデアの創出を図っています。

こうして開発した技術は、国内外で高く評価され、科学技術長官賞や発明功労者褒章を受けました。これまで出願し登録された知的財産権は300件を超え、欧州、アジアなどの外国企業に対する技術供与などを行っています。



東京理科大との共同開発によるハイブリダイゼーションシステム

2. 研究者が語る知的財産経営(東京理科大学専門職大学院 石井教授・鈴木准教授)

(1) 企業連携が事業成功の鍵

事業を一から軌道に乗せるには、資金調達や市場競争など乗り越えるべき多くの課題があり、発明者単独で行うのは困難な場合があります。ビッグビジネスへ発展した発明の多くが、他の企業が途中から関与し、それらの課題をクリアしています。ユニコロイド社でも、商社や製パンメーカーを巻き込むことで円滑な事業化を図っています。

(2) 独占から標準化へ～知財マネジメントの新潮流

知的財産マネジメントは、大きく変化しています。これまでは特許権等を参入障壁とし事業を独占する戦略が中心でしたが、近年、営業秘密はきちんと守りつつ、自社の技術を社会に広めて標準化し、市場規模の拡大を図る企業が増えています。奈良機械製作所の取組もその一形態と言えるかもしれません。

今後は、自社が長期的に競争力を確保できる事業モデルを十分に練ったうえで、必要な知的財産を開発する、又は他から導入するという発想が重要となります。

※本セミナーではパネルディスカッションも行われましたが、読みやすい記事とする都合上、講演内容を再構成しています。

知財セミナーの開催情報とお申込みは知財センターホームページをご覧ください。
中小企業の皆さまの知的財産に関するご相談も承っております(無料・予約制)

TEL 03-3832-3656

公社トップページ



知的財産